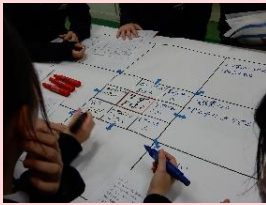


本校は平成26年度に文部科学省SGHの指定を受け、今年が最終年度となりました。2月15日に外部の方をお招きしてSGH成果発表会・国際フォーラムを開催し、今年度の様々な取り組みの成果を発表しました。また、東京外国語大学 大学院総合国際学研究院先端研究部門教授の投野由紀夫先生に「グローバル・リーダー養成のための英語力」というテーマでご講演をいただきました。

【 LABO 活動発表 】

LABO1

生徒をグループに分け、「リーダーとは」というテーマのもと、リーダー像を考え共有するためにディスカッションを行った。また、5年間の研究のまとめとして、グローバル・リーダーとは何か定義づけし、リーダーや、人間としてどうあるべきかについて、発表を行った。



LABO2

生徒たちが作成した「ジェンダーかるた」を用いたワークショップを行った。かるた取りを通して、見学者にジェンダーを身近に感じ、理解していただくと同時に関心を持っていただく機会になったと考える。今後は、実際に小学校などでワークショップを実現していきたい。



LABO3

生徒たちは自分たちが目指すグローバル・リーダー像とは何かを、カンボジア研修旅行、SGH校合同研修会を通して考えてきた。手作りした「カンボジア人生ゲーム」で見学者に楽しく学んでいただき、研究内容を伝え、見学者と一緒に持続的な活動のために方策を考えた。



LABO4

途上国女性の社会進出を阻む問題を解決する方法の一つとして、「フェアトレード」に注目し、発表した。ワークショップではタイやマラウイなどのフェアトレード商品をグループごとに考えて、提案したり、実際にフェアトレード商品の販売会も行ったりした。



【 サービスラーニング 】

高校2年生のサービスラーニングは、高校1年次に取り組んだ研究テーマを生かしながらグループを再編成して活動を行いました。今年度は、行学と総合的な学習の時間2時間を使って校外での活動が可能となり、ボランティアに行く回数が増え、継続的に活動を行うことができるようになりました。活動を続ける中で見えてきた課題について高校生ならではの視点で問題解決策も考え、実践しました。

成果発表会では2年間の活動をポスターセッションという形で発表し、質疑応答も行いました。高校1年生の代表6つのグループも1年間の成果を真剣に発表していました。見学には、本校の生徒だけではなく、外部のお客様がたくさん来てくださり、会場は熱気に包まれていました。自分たちの研究の成果を十分に発表できた満足そうな生徒と上手いかなかったと反省している生徒もいましたが、それぞれに実りのある時間を過ごすことができた研究発表となりました。



◆ 講演会：“グローバル・リーダー養成のための英語力” 投野由紀夫 先生

講師：投野由紀夫氏（本校 SGH 運営指導委員）

東京外国語大学大学院総合国際学研究院先端研究部門教授・ワールドランゲージセンター センター長・英語コース学会会長

講演会は、Grammatical, Discourse, Strategic and Sociolinguistic Competence の4つのキーワードを中心に、日々の授業での知識基礎力向上の大切さや、単語や文法の基礎力トレーニングの必要性についてお話しいただきました。

「本当のグローバル・リーダーとは分かりやすい言葉で考えを的確に伝えられる人であり、そのためには基礎的な力を身に付けることが大切である。その力を身に付けるためには、名文の暗唱や、英語の授業で出てきたフレーズを自分のものにする、そして日本語の本も沢山読み、それについて意見を論理的に日本語で書くことが有効である」とのお話に、生徒たちは感銘を受けていました。



◆ 国際フォーラム：男女平等社会の実現に向けて ～女性が光となって、誰もが輝く社会へ～

【参加者】

パネリスト：フィンランド（ヘルシンキ国際高校）男女各1名・アメリカ（アシュリーホール校）女子1名・イギリス（ギャップイヤー）女子2名・海城中学高等学校 男子4名・本校生徒 女子4名

評価者：佐々木順子氏（本校 SGH 運営指導委員）◆株式会社安川電機・社外取締役◆

投野由紀夫氏（本校 SGH 運営指導委員）◆東京外国語大学大学院総合国際学研究院先端研究部門教授◆

司会者：本校生徒 2名

本校初の「国際フォーラム」は“男女平等社会の実現に向けて”というテーマのもと4か国の高校生ら男女15名が人見記念講堂の舞台上がり、その課題と展望について英語で2時間半語り合い、最後に提言を行いました。

フォーラムでは、本校は LABO 生が成果を発表しました。また、壇上のパネリストや会場の生徒が「ジェンダー・フリー教育」の重要性を指摘し、「昭和のトイレの表示を男女で同色にしたら良い」という提言も会場から寄せられました。セクシャル・ハラスメントを告発するアメリカ発の「#Me Too movement」も話題になりました。フィンランドではこの運動の影響で、セクハラに関して法や処罰が厳格になり、多くの女性がハラスメントを話題にしやすくなったと報告がありました。



質疑応答の際には、「男子に質問。将来家庭を持った時に男女平等の家庭をどのように作って行きたいですか」「フィンランドから見て、日本がもっと男女平等になるようにアドバイスはありますか」「フィンランドで女性の政治家が4割と多いのはなぜですか」など会場の高校1・2年生が積極的に質問をしました。また、100件余りの質問や意見がコメント用紙でも寄せられました。佐々木順子先生からは、「海城生から、親の世代こそ変わる必要があるので、親と今晚話をするという行動案が出たが、具体的なとてもいい」、投野由紀夫先生からは「英語のディスカッションが充実していた」と評価をいただきました。



「性差別撤廃」という課題は、国連が掲げるSDGs（持続可能な社会実現のための目標）の一つです。今回のフォーラムでは「女性が光となって、誰もが輝く社会を」という副題を掲げましたが、女性がリーダーシップを発揮し、十全に活躍する社会は、さらなる多様性を活かす社会となる——。生徒たち自らがつかみとって広がった新たなテーマに向かって、本校の学びは深化・進化を続けてまいります。

